

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300050		
法人名	株式会社 日本ケアリンク		
事業所名	せらび千葉稲毛		
所在地	千葉県千葉市稲毛区宮野木町2125-7		
自己評価作成日	2012年10月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様同士で共に助け合いながら生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年は、法人内の別の事業所への職員異動にともない、若手職員の育成や活躍の場の拡大に力を入れてきた。法人本部の人材開発室とも連携し、研修、OJTなどでは、職員個々のスキル把握や、個別指導を心がけている。これにより職員の離職も一時期より減少した。その他、防災訓練では、日中、夜間の火災想定のもと、職員が具体的にどう動くのか、現実に即した手順書を作成し、周知を図っている。アセスメントシートの改定も行い、利用者個々の想いの理解や、ケアプランとの連動を意識して、記載内容の見直しをするなど、利用者本位のケアに努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれが理念を理解し実践に繋がるように努めているが、職員によって差がある	ホーム名の「せらび」を、利用者と職員はともに素晴らしい人生を歩むと解釈し、具体的な目標を掲げてケアにあたっている。定期的な研修で理念を確認するとともに、新入職員はオリエンテーションで説明を受ける。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域のイベントに参加している	ホーム近隣の小中学校生徒たちとの交流が盛んである。学校行事の見学や福祉研究の生徒受入れなどを実施した。他、自治会活動として、地域の清掃などにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回地域の人たちとの交流の場として施設を開放している。小学校の見学も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族からの意見を受け取りすぐに行動に移す様にしている	定期的に家族や地域住民、地域包括支援センター職員らを招いて開催している。家族から食事内容を知りたいという要望を受け、メニューを明示したり、食事付きの会議を開催するなどの工夫を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やモニタリングを通して伝えている	あんしんケアセンター(地域包括支援センター)との連携、協力を密にしている。在宅高齢者の困難ケースの相談を受け、対応方法のアドバイスをを行った実績がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議にて研修を行っている。玄関は安全面を考え施錠している。	身体拘束は原則行わない。これまで1階～3階に通じるエレベータは職員しか操作できなかったが、現在は日中は誰でも使えるようにした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて研修を行い職員同士連携を取り防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ごとに理解度が異なっている今後も研修を行い理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約についての説明は管理者が行い、曖昧な返事をしないよう説明者を絞っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様・ご利用者様アンケートを行っている。また、意見箱を設置したり運営推進会議などで意見を頂いた際は話し合い、実践している。	ケアプランと連動して利用者の思いや意向を叶えられるよう、若手職員に対して、ニーズ把握の視点を鍛える取組みを行っている。また、家族の意見は運営推進会議などで出してもらい、運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議や会社全体の会議などを行って反映に活かしている。	2階、3階それぞれ、ユニットリーダーを中心に職員が意見交換してフロアの運営を行っている。2階では今年、食材購入を業者委託に切り替え、利用者のレクリエーションの機会を増やす取組みを実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	変えられない事もたくさんあるが、変えられる事は職員の意見を参考に働きやすくなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を行っているまた、受けてもらいたい時は管理者より本人へ伝える事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や市の勉強会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めて、ご本人様との会話を通して信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話し合い要望はなるべく早く叶えるように努力し信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会に来所された際に「何か困った事などありませんか?」と聞くようにしている。何気ない会話から見極めるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように考えている為、ご利用者様の出来る家事は一緒に行う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様の関係を大切にしながらケアを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が何時までも不快な思いをしないで来訪して頂けるように支援に努めている	面会簿への氏名記載を廃止し、より一層、気軽にホームを訪れることができるように改善した。来訪者が気持ちよく訪問できるように、職員一人ひとりが心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が目配り、気配りを行い家事やアクティブを通して利用者同士が関わり合いを持てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡があればいつでも相談に応じる体制になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現出来ない方の事も常にその人らしい暮らしになっているかチーム全体で考えている。	ホームではアセスメントに力を入れており、生活の細かい部分まで観察し、居室担当者がアセスメント用紙に記入している。日々の記録や家族の意見も参考にしながら、利用者の発する言葉や行動をもとに思いや意向を把握している。常に「これは利用者の意向なのか」を問い直してもいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様に聞いた事など記録に細かく記入し職員間で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケース記録を読む事により常に把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行ったりカンファレンスにより意見やアイデアをもとに介護計画を作成するようにしている。	計画作成時は利用者・家族の意見も取り入れながら担当者会議を開いている。モニタリングは毎月、居室担当者を中心にスタッフ会議で行なっているため、現状に即した介護計画となっている。このモニタリング用紙は家族にも渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやカンファレンスで職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人、ご家族の状況に合わせてご家族の代わりに買い物や受診に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会の協力を得ながら楽しめるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に合わせて代わりに受診に行ったり同行したりしている	ホームの協力医の他、以前からのかかりつけ医や専門医の受診など、希望に応じている。現在、受診回数の増加による家族・職員の負担の軽減が課題だが、変更する場合も本人や家族が納得することに重きを置き、充分話し合うこととしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師や訪問介護は利用していないが、必要だと感じれば訪問看護を利用する事を考えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、担当医より状況を確認し退院前に今後の対応を担当医に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しそうと感じた時には、ご家族様に説明をし、お互いに協力し合い不安をなくすように努めている	ホームでは看取りを行なう方針で、家族の意向を確認しながら進めることにしている。現在、訪問看護を含めた医療との連携や、職員体制などを模索中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し使用方法の講習を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、手順などの用紙を掲示し、周知している	夜間想定・火災訓練など、毎回テーマを決めて訓練を定期的に行なっている。消防署のアドバイスを受けたたり、自治会の消防訓練にも参加している。	安全な避難には地域の協力は重要である。今後は地域との協力体制構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、状態にあわせた言葉を選び対応するよう心がけている	利用者に敬意を払うこと、プライバシーを損ねない対応などについては、職員や実習生などのオリエンテーションで必ず伝え、その後も折に触れ話している。ブログなどへの情報漏洩にも注意を喚起し、職員一人ひとりの意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の希望を表現できるように自己決定できる場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが個人を尊重し、出来る範囲で行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心がけ、その方の好みに合わせたおしゃれが楽しめるように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を場面場面でお願ひし一緒に行っている	管理者が食事は職員も一緒に楽しもうと考えており、季節感を大切に、利用者の食べるスタイルを尊重している。イベント食や外食を企画している。会話を楽しみながら自分のペースで食事をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し個々の状態に応じ一口大や刻み食にに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し確実にを行うようチェックして記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態をチームで共有し個々に合わせたケアを考え支援をしている。	各ユニットに前受け(前のほうにもたれかかれるような)タイプの手すり備えたトイレが4箇所設置されているため、一人ひとりが体に少ない負担でゆっくり利用できる。排泄チェック表も活用し、時間帯や身体状況に応じた支援により、現在は全員がトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し、排便時は医師に相談し対応している。予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿ってケアプランを作りチーム全員で共有し行っている	利用者のペースや希望を把握して入浴時間を決めており、週3回以上は入浴してもらえるようにしている。重度化した人は1階の小規模多機能型事業所の浴室を利用していたが、ホーム内で入浴できるよう、3階へのリフト浴設置の準備を始めた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状況や状態によっていつでも休憩や安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との連携を図り、分からない事は確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のアクティブやボランティアに協力をして頂き、音楽や絵手紙等を楽しまれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物の他にご本人、ご家族様の要望にも計画し支援している	その日の希望を確認し、無理はしないようにしている。買い物・スポーツジム・以前住んでいた家に行くなど、個別の外出も支援している。玄関やエレベーターの施錠を日中やめたことで、敷地内活動範囲が広がり、外気に触れる機会も増えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の個々での所有は難しく出来ないが、買物に出るときに個人の有する能力に応じて支援をして行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望によりやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合った飾り付けをリビングに飾り季節感を出している	法人に衛生委員会があり、環境整備には一定の基準を設けている。季節を感じられるような飾り付けがされたリビングは、光や室温も適切に管理されており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。リビングに貼る写真は利用者が見やすいように大きく引き伸ばしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の置き方など工夫したり、座席の配置にも気を配っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居心地よく過ごせるように助言し、基本はご家族様でディスプレイして頂いている。	ホーム内での生活は自由を基本としている。喫煙・飲酒についても相談の上認めている。ふだんから職員と共に利用者が清掃を行ない、家族の協力も得て配置換えなども行い、居心地のよい部屋をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれが自立した生活を送る事が出来るよう安全な環境作りに努めている。		